

学校名 永利小学校

校長名 畠野 裕昭

番号	事項	評価項目	学校教職員による自己評価			学校関係者評価委員による評価(集約)				
			評価(数値平均)	対策・改善点			評価(数値平均)	主な意見		
1	(1)	校長の学校経営方針等が保護者や地域に伝わっている。	段階	人数	平均	南中校区学校運営協議会や学校だより、各種行事等を捉え説明し、理解と協力を得る。	段階	人数	平均	学校だよりを楽しみにしている。子供の様子がよく分かる。 回覧板で全家庭に伝えるところが良い。
			A	6	3.1		A	3		
			B	17			B	3		
			C	2			C			
D	1	D								
2	(1)	望ましい子供の姿(知・徳・体)に向かって数値的目標を設定し努力している。	段階	人数	平均	望ましい子供像を明確に示し、実態を基に数値目標や実践事項を設定し取組を進める。	段階	人数	平均	学校だよりで各種の活動・成果等が紹介されており、子供たちも目標ができて、意欲につながると思う。
			A	0	2.8		A			
			B	20			B	6		
			C	6			C			
D	0	D								
3	(2)	子供たちは、楽しそうに生き生きと学校生活を送っている。	段階	人数	平均	コロナ渦で正しく児童主体の授業づくりに努める。情報交換を密に初動を大切にす。	段階	人数	平均	社協との協力で、民生委員の活動等を理解してもらえた。 校外でも明るく登下校している姿をよく見かける。
			A	5	3.1		A	3		
			B	19			B	3		
			C	2			C			
D	0	D								
4	(2)	いじめや不登校など生徒指導上の課題解決に向けて積極的に取り組んでいる。	段階	人数	平均	全職員で情報の共有化を図り、家庭や関係機関との連携を密にして組織的対応をしていく。	段階	人数	平均	先生方の意識が高く、それなりの対応がなされている。 大きなクレームも無く、あってもすぐに対応し取り組んでいる。
			A	6	3.2		A			
			B	18			B	5		
			C	2			C	1		
D	0	D								
5	(3)	子供たちの安全(登下校時、自然災害時)について細心の注意を払っている。	段階	人数	平均	スクールガードや家庭、関係機関と連携した交通事故防止や避難訓練の充実に努める。	段階	人数	平均	スクールガードの方々の見守りに感謝している。 ▲登下校時の車での送迎が増加傾向にあるのではないか。
			A	3	3.0		A	3		
			B	19			B	3		
			C	4			C			
D	0	D								
6	(4)	教職員は、子供や保護者、地域との望ましい関係を築いている。	段階	人数	平均	児童理解に努め保護者とも信頼関係を構築し、地域行事等にも積極的に参加する。	段階	人数	平均	コロナ渦でも保護者と信頼関係を築こうとしている。 ▲子供や保護者との関係は良好だと思われるが、地域との関わりが手薄になって教頭先生がいつもきれいにされている。 奉仕作業ができなくて一部の関係者に負担がかかったのではないかと。
			A	3	2.9		A	1		
			B	18			B	5		
			C	5			C			
D	0	D								
7	(5)	学校は常に整理整頓、清掃され、花や緑に囲まれている。	段階	人数	平均	日常の清掃指導や職員作業に努め、PTA奉仕作業等も計画的に進めていく。	段階	人数	平均	今のところ事故等の情報は聞かないので、施設等の維持管理は適切になされていると思う。
			A	2	2.8		A	3		
			B	16			B	3		
			C	8			C			
D	0	D								
8	(5)	学校の施設・設備は定期的に安全維持管理のための点検等がなされている。	段階	人数	平均	毎月1回全職員による安全点検を確実に実施し、補修箇所への対応を迅速に行う。	段階	人数	平均	▲学力向上に、まだまだ力をいれてほしい。 ▲子供たちの実態について地域にはあまり伝わっているとは思えない。
			A	8	3.2		A	3		
			B	16			B	3		
			C	2			C			
D	0	D								
9	(7)	子供たちの学力や体力の実態が保護者や地域によく知らされている。	段階	人数	平均	コロナ渦で体力テストが無かったが一校一運動の縄跳びを継続し、体力向上を図る。	段階	人数	平均	地域では子供たちを見守る態勢は整っていると思うが、今年はコロナ渦で機会に恵まれなかったように思う。
			A	0	2.7		A	2		
			B	18			B	2		
			C	8			C	2		
D	0	D								
10	(7)	保護者や地域は学校の教育活動に対して協力・支援を行っている。	段階	人数	平均	多くの行事が中止だったが、学校と家庭、地域が双方向の関係を保てるよう工夫する。	段階	人数	平均	
			A	0	2.8		A			
			B	20			B	6		
			C	6			C			
D	0	D								

様式6 令和2年度 学校関係者評価結果

No. 2

学 校 名
永利小学校

番号	事項	評価項目	学校教職員による自己評価(集約)			対策・改善点	学校関係者評価委員による評価(集約)			
			段階	人数	平均		段階	人数	平均	
11	(6)	小中一貫教育は、積極的に実践され、子供たちの姿として現れている。	A	1	2.6	コロナ渦ではあるが可能な限り授業交流や交流活動を計画的・積極的に推進する。	A	1	3.2	中学校生活にスムーズになじんでいけることは、良い制度であり、努力の成果だと思う。
			B	14			B	5		
			C	11			C			
			D	0			D			
12	(6)	薩摩川内元気塾は、子供たちに夢や元気を与えてくれている。	A	0	2.8	講話から生き方を学んだり夢をもらったりする機会となっており効果的に活用する。	A	1	3.0	実際の所、子供たちの意見を聞いてみないと分からない。 ▲講話だけでなく体験的なことも取り入れられないか。
			B	20			B	4		
			C	6			C	1		
			D	0			D			
13	(6)	英語教育の推進について、小・中学校の特質を活かして充実が図られている。	A	1	2.9	中学校との連携やALT, ESTを活用したコミュニケーション能力の基礎を育んでいく。	A	1	3.2	基礎能力の向上に期待する。 小学校からの基礎は大事。授業参観でも英語教育を保護者へ見せてほしい。
			B	21			B	5		
			C	4			C			
			D	0			D			
14	(2)	子供たちは、学校や地域で進んであいさつをしている。	A	0	2.3	率先垂範を心がけ、児童会とも連携しあいさつの溢れる学校を目指す。	A	2	3	▲呼びかけには応じるが自分から進んでする児童は少ない。 顔見知りの子は、しっかりする。元気な気持ちの良い挨拶をしてくれる。
			B	10			B			
			C	15			C	4		
			D	1			D			
15	(8)	服務規律の厳正確保と校務の整理について、全職員の理解と実践がなされている。(自分のこととして捉えている。)	A	0	2.8	機会あるごとに指導し、自分の職場からは出さないという職場帰属意識を高める。	A	3	3.5	教職員の高い意識と取組に期待する。 服務規律は守られていると思う。
			B	20			B	3		
			C	6			C			
			D	0			D			

↑A=4点、B=3点、C=2点、D=1点として、学校教職員の評価を平均(小数第1位まで)

↑A=4点、B=3点、C=2点、D=1点として、学校関係者評価委員の評価を平均(小数第1位まで)

<学校関係者評価結果及び委員の意見等をふまえた次年度の改善点と対応策>